

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪府立泉北高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☒ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒590-0116
大阪府堺市南区若松台 3-2-2
E-mail _____
Website http://semboku-h.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 362 名 女子 474 名 合計 836 名
幼児・児童・生徒の年齢 16 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は平成 27 年度にスーパーグローバルハイスクールに指定されて以来、国連の SDGs 17 項目に関連する課題研究に国際文化科全体で取り組んできた。また、学校全体としてボランティア活動への参加の奨励や、JICA 青年海外協力隊員と連携してボルネオでの海外研修や地域のボランティア活動など多くの希望者による活動も行ってきた。①グローバル課題研究 I の研究テーマの紹介、②学校が認定するボランティア活動等を 30 時間以上行ったものに 1 単位認定を行うグローバル活動 I 及び II とその中でも通年で行っている模擬国連活動などについて報告する。

① グローバル課題研究 I

今年度は 42 班に分かれて課題研究を行なった。研究テーマは、「運動部所属生徒の効果的な食事」、「LGBT の労働環境」、「衣服のリサイクル」、「ペットの殺処分」、「アンゴラの乳幼児医療」、「児童虐待」、「フードリサイクル」など SDGs 17 項目に関連する内容で、多岐にわたる。個人の興味関心を元に、共通の関心を持つ生徒同士で 3 ~ 5 名の班を生徒自身で形成させて課題研究

を行なった。その成果は、SGH 課題研究中間発表としてポスターセッションを行なった。

② グローバル活動Ⅰ及びⅡ

今年度も約20種類の活動をグローバル活動として認定した。通年で行っている模擬国連活動では「ジェンダー平等と人権」を議題として、国連会議の進行方向や国益を考慮した決議案の作成方法を学び、3月3日（土）に校内模擬国連を実施した。また、サラヤ株式会社より中西氏から生物多様性に関する講義とワークショップを行っていただいたり、大阪マラソンに語学ボランティアとして約20名が参加し活躍した。大阪マラソンボランティアの活動報告は、One World for Youth のESD パスポート体験報告会で実施し、その成果は冊子に掲載されている。



① 班分けセッション



①SGH 課題研究中間発表会



② 生物多様性ワークショップ



②校内模擬国連活動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	■ 2. エネルギー	■ 3. 防災	■ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	□ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	■ 11. 持続可能な生産と消費	■ 12. 貧困

<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()	

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

本校教員が作成した自主教材

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間に、グローバル課題研究Ⅰ及びⅡとしてSDGsの17項目に関連する課題を解決するための課題研究を、国際文化科2、3年生全員で実施している。2年生は9名、3年生は7名の教員が担当し、指導内容について打ち合わせを重ね、改善もしながら進めている。また、課外活動として、学校がグローバル活動と認定した活動に1年間で30時間参加した場合、グローバル活動ⅠまたはⅡとして1単位の修得を認定している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

SGH 委員会の役割分担の一つにユネスコスクール係をもうけ、学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組めるようにしている。 また、外部の会議にも出席して得られた情報を、委員会中心に共有している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、保護者、教員、生徒対象に実施する学校教育自己診断アンケートおよび SGH 事業アンケートによる評価を活動の質向上に用いている。保護者からの意見から、グローバル活動に興味があっても生徒自ら積極的に参加することが難しい生徒もいるようで、全員参加などの強制的な活動も取り入れて欲しいと要望があった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

活動の様子は本校 HP で報告し、ESD パスポート体験報告の冊子や SGH 研究完了報告書などで全国の学校に発信している。昨年は、本校の HP で活動の様子を見た外部機関からボランティアや成果発表会への参加依頼があった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

グローバル課題研究Ⅰ及びⅡ、グローバル活動において、桃山学院大学、大阪府立大学、パナソニック株式会社、日興アセットマネジメント株式会社、日本ハム株式会社を中心に、NGO 団体や JICA、その他企業とも連携して活動を行なっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（２００字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

大阪の ASPnet が主催する活動や ESD パスポート活動に参加し、他のユネスコスクールと交流を行っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（２００字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

SDGs の 17 項目を中心に持続可能な社会を作っていく概念の浸透が教員にも生徒にも見られ、プレゼンテーション能力の育成にも役立っている。

（３）平成 30 年度の活動計画（２００～４００字程度）

平成 30 年度もこれまでの活動を継続して、SDGs 17 項目に関連する課題研究を行い、グローバルリーダーとして持続可能な社会を担う人材育成をめざす。また、地域の解決できるボランティア活動に生徒が自主的に参加して、ユネスコスクールとして社会貢献できるように活動していく。このため、一人でも多くの生徒が参加できるよう、グローバル活動内容や参加方法を広く丁寧に告知し、参加しやすいように工夫を施していく。